SEIKO
大正琴調律器
ST300s
取扱説明書

ごあいさつ

この度は、SEIKO大正琴調律器ST300をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用の前に本説明書・安全上のご注意をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

安全上のご注意

表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を表示しています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

⃠ 記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は強制（必ず実行して欲しい）したり指示する内容があることを告げるものです。図の中や近くに具体的な行為（左図の場合は差込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

― 以下の指示を必ず守って下さい。―

⚠ 警告

この機器を分解・修理・改造しない。
故障・ショートの原因になります。

水滴のついた手で、スイッチ操作をしない。
ショート・感電の恐れがあります。

電池を火の中に入れない。
破裂・発熱・発火の恐れがあります。

⚠ 注意

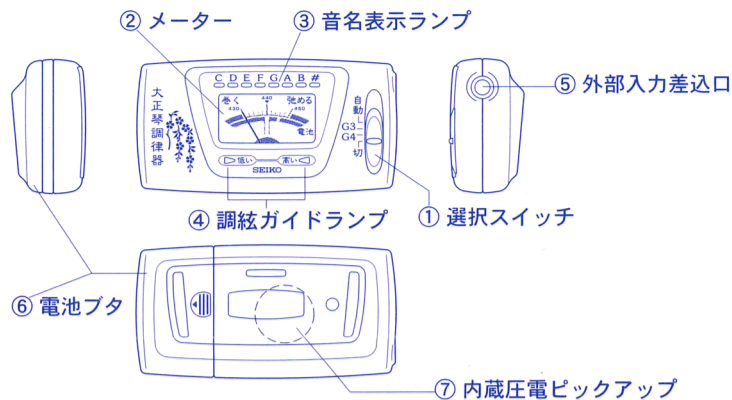
電池は ⊕ ⊖ を正しく装着する。
故障の原因になります。

次のような場所での使用や保存はしない。
故障の原因になります。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所

電池は長時間使用しないときは外す。
漏液等で故障の原因になります。

上ブタやスイッチ及び本体に無理な力を加えたり、落としたり、強くぶつけたりしない。
故障・けがの原因になります。

お手入れにはシンナー・アルコール類は使用しない。
故障の原因になります。

各部の名称

＊お使いにならないときは、選択スイッチ①を必ず「切」にして下さい。

調絃のための対応表

これは、大正琴の種類と調絃される「絃」と「選択スイッチ」の位置を「対応表」にしたものです。

大正琴の種類	「絃」の種類	「選択スイッチ」の種類
ソプラノ	「１番線」「２番線」「３番線」	「Ｇ４」
	「４番線」	「Ｇ３」
	「５番線」	「自動」
タイプII	「１番線」「２番線」「３番線」	「Ｇ３」
アルト	「１番線」「２番線」「３番線」「４番線」「５番線」	「自動」
バス	「１番線」「２番線」	「自動」

調絃の方法

ご使用の前に、付属の電池の包装を取り除いて、裏面の「電池交換のしかた」の手順で、電池を入れて下さい。調絃を行う時は顔を絃に近づけすぎないようにして下さい。不意に絃が切れた場合、思わぬケガの原因となります。

1. スイッチの説明

「選択スイッチ」の位置	調絃できる「音」
「切」	電源が入っていない状態
「Ｇ４」	高い「Ｇ」の音
「Ｇ３」	低い「Ｇ」の音
「自動」	「Ｃ」～「Ｂ」のすべての音（12音）

2. 調絃の手順

（1） １番線～４番線の調絃

1） １番・２番・３番線を調絃したい時は、**選択スイッチ①**を「Ｇ４」に合わせて下さい。
４番線を調絃したい時は、**選択スイッチ①**を「Ｇ３」に合わせて下さい。
メーター②の針が動き、電池の残量をしばらくの間（約２秒間）表示します。
（詳しくは電池残量表示の項を参照して下さい。）
音名表示ランプ③のＧが点灯します。

2） 調律器本体を図のように大正琴の天板の上に直接置いて下さい。（＊この調律器は、**内蔵圧電ピックアップ⑦**があなたの大正琴の音の振動を感知して反応します。）

3） 絃を弾いて下さい。

4） **調絃ガイドランプ④**の指示に従って絃を巻いたり弛めたりして下さい。絃を「巻く」と音は高くなり、絃を「弛める」と音は低くなります。合わせたい音は近くなりますと**メーター②**の針が動き出します。（下の調絃状態図 I を参考にして下さい。）

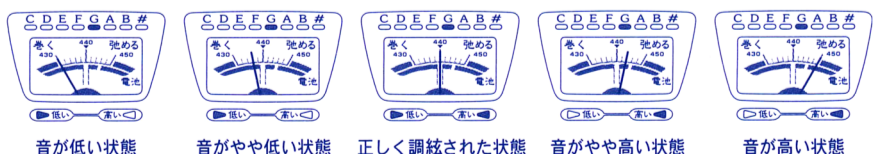
●調絃状態図 I

音が低い状態

音がやや低い状態

正しく調絃された状態

音がやや高い状態

音が高い状態

5） **調絃ガイドランプ④**が２個同時に点灯すると調絃完了です。（より正確に調絃するには、**メーター②**の針が中央に位置するように調絃して下さい。）

（2）５番線の調絃

1） 選択スイッチ①を「自動」に合わせて下さい。「切」の状態から合わせた場合は、電池残量を表示します。
2） 絃を弾いて下さい。音名表示ランプ③が点灯し、弾いた音の音名を表示します。
3） 「G」の音名表示ランプ③が点灯するように、絃を巻いたり弛めたりして下さい。「G」の音名表示ランプ③が点灯したら、次は調絃ガイドランプ④とメーター②の針の状態を確認して下さい。
4） 前項の調絃状態図 I を参考に絃を巻いたり弛めたりして下さい。（音名表示ランプ③は「G」が点灯。）
5） 「G」の音名表示ランプ③が点灯し、調絃ガイドランプ④が２個同時に点灯すれば調絃完了です。（より正確に調絃するには、メーター②の針が中央に位置するように調絃して下さい。）（下の調絃状態図 II を参考にして下さい。）

●調絃状態図 II

「G」の音が正しく調絃された状態

（3）基準ピッチの調整について

通常の調絃は、基準ピッチ（音程）をメーター②の表示（430 から 450 の目盛り）の中央の 440 で合わせます。（この「440」は「440Hz（ヘルツ）」といって、音を周波数で表わした時、基準になる音「A」を 440Hz に合わせることをいいます。）
演奏する「曲想」や他の楽器とのアンサンブル（合奏）に必要な時などは、「440Hz」以外に合わせる事があります。

1） 基本操作は、Ｇ３，Ｇ４を合わせる時や自動の時と同じです。
2） メーター②の針が合わせたいヘルツ（例えば 442）にくるように、絃を巻いたり弛めたりして下さい。
3） 合わせたい音名表示ランプ③の音名が点灯し、針が合わせたいヘルツの所にあれば調絃完了です。この時、調絃ガイドランプ④は２個同時に点灯しません。下の調絃状態図 III を参考にして下さい。

●調絃状態図 III

基準ピッチ438で「G」の音を調絃した状態

基準ピッチ444で「G」の音を調絃した状態

（4）電気大正琴をお持ちの皆様へ

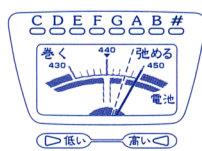
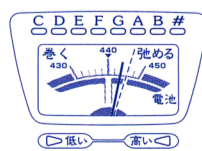
電気大正琴を調絃する場合、次のいずれの方法でも調絃することができます。
(a) 調律器本体を大正琴本体の天板に置いて調絃する。
(b) 接続コードで大正琴と調律器を接続して調絃する。この時、大正琴本体の「出力口」と調律器の外部入力差込口⑤を接続コード LI-40（別売）でつないで下さい。

電池残量の確認

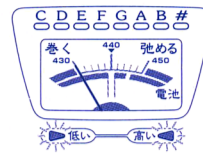
電池残量は、２つの方法（手動方式、自動方式）で確認することができます。尚、電池を交換する時は、必ず選択スイッチ①を「切」の状態にしてから交換して下さい。

1． 手動方式による確認

1） 選択スイッチ①を「切」から「Ｇ４」､「Ｇ３」､「自動」いずれかに合わせて下さい。
2） メーター②の針が動きます。針がしばらくの間（約２秒間）止まり、電池の残量を確認できます。
この時、メーター②の針が下の図のように点線より左側にある場合〔例２〕は、電池の残量が少なくなっていますので、新しい電池と交換して下さい。

●電池残量表示図

〔例１〕正常な電池

〔例２〕残量の少ない電池

2． 自動方式による確認

ご使用中、調絃ガイドランプ④が同時にチカチカ点滅を始めた時は、電池の残量が少なくなっていますので、新しい電池と交換して下さい。（この状態では調絃の動作は停止します。）

電池交換のしかた

電池ブタ⑥をはずし、⊕ ⊖ を間違えないよう注意して電池を入れます。

調絃時のご注意（こんな反応がでたら）

大正琴の音を鳴らしていないのに、メーター・音名表示ランプ・調絃ガイドが下の図のように反応した状態になることがありますが、故障ではありません。
大正琴の音を鳴らして頂きますと、正常に調絃できます。

＊原因は、周囲の電気機器やそのコード類より発生する強いハムノイズ（電波的な雑音）を拾ったり、周囲の楽器やアンプなどの音を感知するためですが、ご自分の大正琴の音を鳴らして頂きますとその音だけを感知するようになります。

製品仕様と付属品

1． 製品仕様

調律範囲	A0（27.5Hz）～ C8（4,186Hz）
調律精度	±１セント
調律モード	Ｇ４、Ｇ３、自動
表示	LED：音名表示、セントガイド メーター：セント表示
端子	外部入力差込口、内蔵圧電ピックアップ
電源	9V 乾電池１個
付加機能	電池残量表示機能
外形寸法	124mm（W）x 65mm（H）x 36mm（D）
重量	154g（電池込み）

＊ 規格および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

2． 付属品

●巾着ソフトケース　●取扱説明書　●9V マンガン電池

＊ 付属の電池は機能確認用ですので、寿命が短い場合があります。